



## 少人数学級の実現に向けて

小中学校の学級編成にかかわる諸問題を問う 遠藤 章江議員

**議員**

市内の小中学校の学級編成の状況について伺いたい。

**教育長**

国の基準では、小中学校の1学級に編成する児童生徒数は40人（小1は35人）となっている。常総市では、小学生3438名、164学級、中学生1735名、62学級である。

**議員**

特別支援学級のお子さんを含めると実質40人を超える学級もあるのではないかと。

**学校教育課長**

学級編成の調査要綱で、特別支援学級の児童は通常学級の児童数に数えないとされている。

**議員**

市独自の取り決めで2クラスに分けることはできるか。

**指導課長**

40人未満で2クラスにすることは可能ではない。

**議員**

少人数学級の実現に向けて常総市の取り組みは。



**教育長**

県の事業を活用し、16名の非常勤講師を配置しているほか、市独自の費用で、小学校にTT非常勤講師8名、小中学校に教育補助員25名を配置している。

**議員**

埼玉県志木市では市独自の努力で25人学級をやっている。少人数学級に対する市長の考えは。

**市長**

少人数教育を推進できる方法について積極的に取り組みたい。

**議員**

少人数クラスのメリットは教師の目がきめ細かに届くことである。また少人数学級にしてクラスを増やす最大のメリットは「クラス替え」にある。いじめ等の問題があった時に、多クラスであればクラス替えによって新たな気持ちで次の学年に臨める。市を挙げて少人数学級の推進に努めていただきたい。

## 相反する選挙公約と市民の願い



市民本位の市政運営を進めるためには  
 中村 安雄議員



市民の広場

**議員**

にぎわい再生事業の市民の広場は、ただの駐車場のようになっており、使い勝手が悪い。当時、市民の広場には多目的ホールをつくる計画だった。地元区長代表から建物建設の請願も出されている。使える施設がないため生涯学習センターも大混雑している。選挙で公約したところが本来の姿ではなく、多くの議員、市民の皆さんからそういう意見があれば、きちんと訂正して正しい運営に戻してもらいたい。みんなの願いを行政に反映するのが当然の姿ではないか。

**市長**

議員の皆さんの意見や地元の要望を真摯に受け止めて、慎重に検討をし、何とか改善していきたいと思っっている。

**議員**

検討しますの話ではなく、やるかやらないかの話。市民は早くサービスを受けたらと思っています。時間は待ってられない。

**市長**

にぎわい再生事業の会計検査が27年度に予定されており、それまで手をつけることは事実上できない。それでは遅いので、計画案・構想についてはなるべく早い段階で検討し報告できるようにしたい。

**議員**

近所の人は困っている。建てるというところで理解していいか。

**市長**

今の段階で建てるとは言えないが、検討は真剣にしている。

**議員**

正しくないものは正しいほうに転換していただきたい。市民に喜ばれる体制をつくらなければ政治ではない。やはり選挙公約はきちんと実行できる範囲内ですべきだ。よく反省して行政運営に当たっていただきたい。